

1. 投稿数・採択数

投稿数: 317編 採択数: 248編

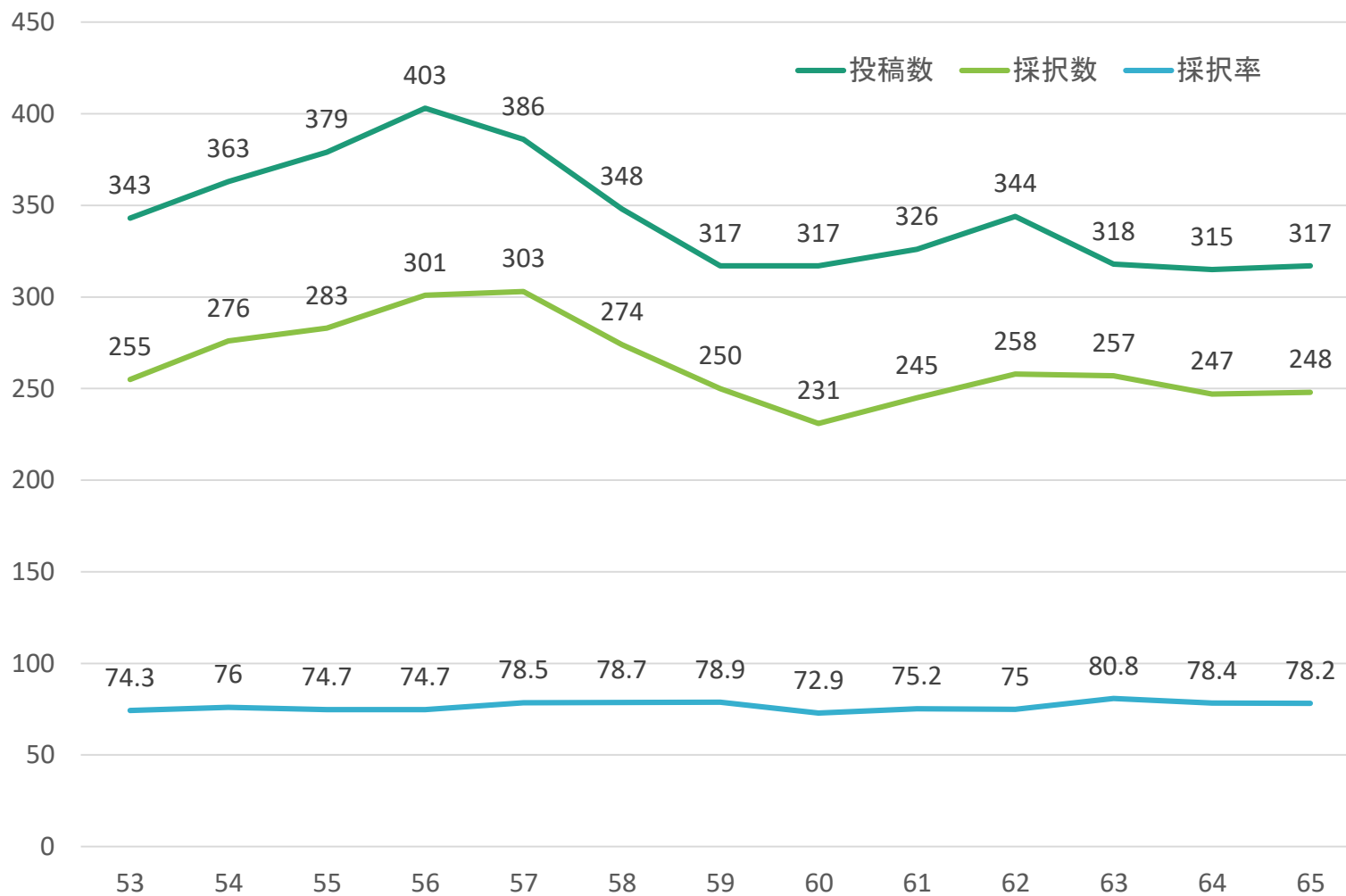
巻	年	投稿数	採択数	採択率
53	2009	343	255	74.3
54	2010	363	276	76.0
55	2011	379	283	74.7
56	2012	403	301	74.7
57	2013	386	303	78.5
58	2014	348	274	78.7
59	2015	317	250	78.9
60	2016	317	231	72.9
61	2017	326	245	75.2
62	2018	344	258	75.0
63	2018	318	257	80.8
64	2019	315	247	78.4
65	2020	317	248	78.2

※ 加えて「通常号」からの講演: 4編

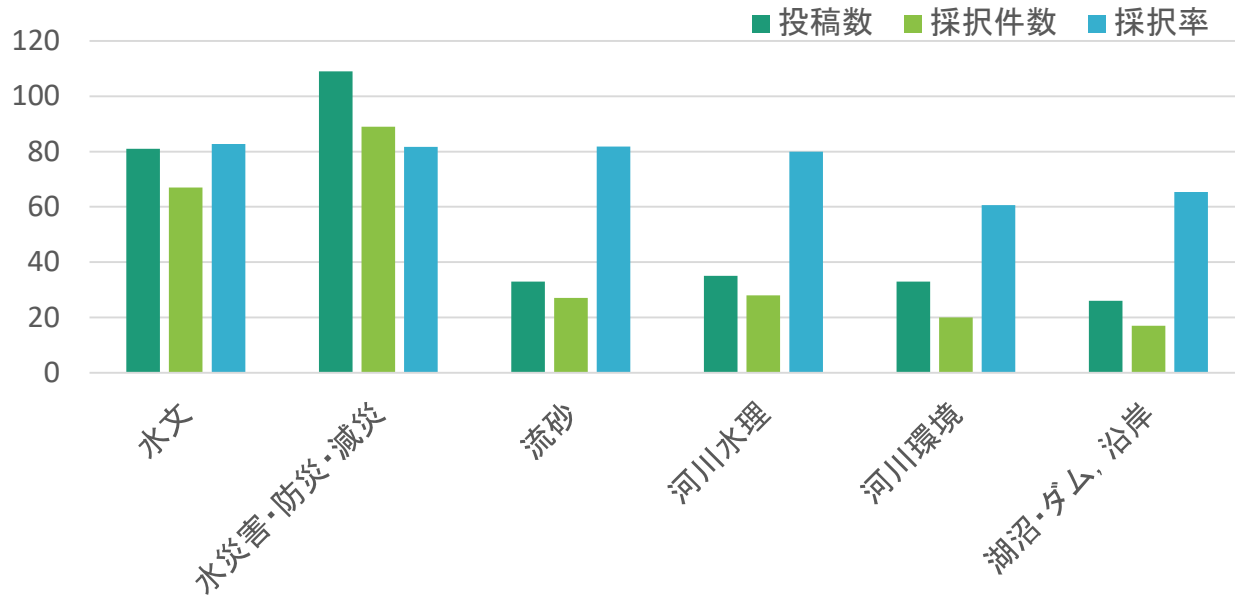
2. 分野別: 水災害・防災・減災分野へ多くの投稿傾向!

分野	査読キーワード	キーワード別		分野別		採択率
		投稿数	採択件数	投稿数	採択件数	
水文	水文気象プロセス	16	12	81	67	82.7%
	生態水文	0	0			
	気候変動とリスク評価	26	22			
	降水	8	8			
	流出解析	11	8			
	水文統計／水文情報	7	4			
	雪氷水文	4	4			
	地下水・浸透	9	9			
水災害・防災・減災	流域管理・洪水リスク管理	31	23	109	89	81.7%
	水災害・防災・減災	59	49			
	水害・氾濫の水理	19	17			
流砂	流域土砂動態	3	2	33	27	81.8%
	流砂	12	11			
	河床形態・流路形態	8	6			
	河床変動	10	8			
河川水理	管路・局所流	7	6	35	28	80.0%
	開水路の水理	12	8			
	密度流・噴流・拡散	0	0			
	水理現象の数値解析	5	4			
	流体力・流体振動・波動	1	1			
	観測技術	10	9			
河川環境	河道・流域の環境・環境評価	8	5	33	20	60.6%
	流域の流出負荷・河川の水質	4	3			
	水生生物・魚道	15	8			
	河道の植生	2	1			
	河道の物理環境	4	3			
湖沼・ダム、沿岸	湖沼・貯水池の水理と環境	8	4	26	17	65.4%
	沿岸・河口域の水理と環境	17	12			
	津波	1	1			
	計	317	248	317	248	78.2%

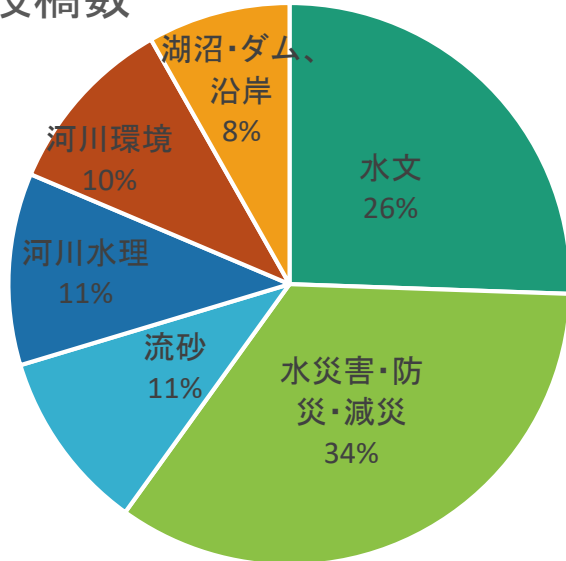
3. 53巻～65巻の投稿数等 推移



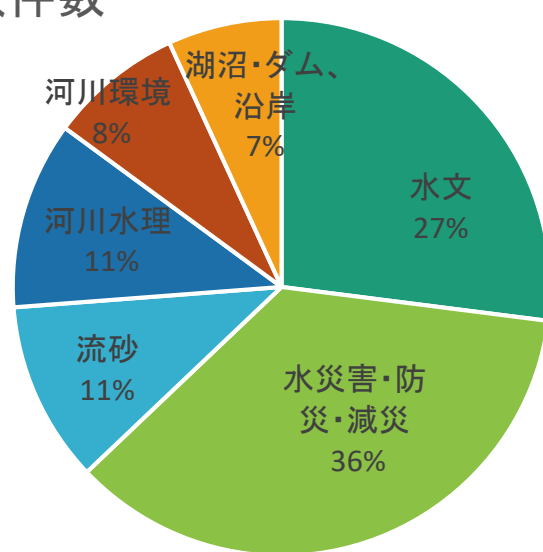
分野別 投稿数・採択件数・採択率



投稿数



採択件数



Best International Paper Award

(水工学論文集65巻)

受賞者: Thatkiat MEEMA (Kyoto University)

受賞論文: INTEGRATED RESERVOIR-
HYDROPOWERHYDROLOGIC MODEL FOR WATER
RESOURCES AND ENERGY ASSESSMENT

(共著者: Yasuto TACHIKAWA, Yutaka ICHIKAWA and Kazuaki YOROZU)

河川部会報告

構成

部会長 田村浩敏(建設技術研究所)
 副部会長 諏訪義雄(国土政策総合研究所)
 同 内田龍彦(広島大学大学院)
 部会員 総計 34名

➤ 第1回河川部会 2020.10.1(WEB会議)

- ・2020年6月に予定されていた「河川技術に関するシンポジウム」は中止。
- ・次回の「河川技術に関するシンポジウム」は以下のとおり開催する。

2021年6月10日(木)～6月11日(金)

オンライン開催予定

オーガナイズドセッションとポスターセッションの方法は担当WGで検討中

- ・河川技術論文集の論文募集は、概ね例年どおりのスケジュールで実施予定。

2020年12月上旬 会告

2021年1月28日 要旨投稿×切

2021年4月2日 本論文投稿×切

➤ 河川技術論文賞

- ・第26巻河川技術論文集(2020年6月)の論文等のなかから選考
- ・第一次審査において候補論文4編が選定され、水工学委員長の承認済み。
- ・査読審査員を割り当てて、第二次審査を開始する予定。
- ・2021年6月の河川シンポジウムにおいて受賞者を発表予定。

環境水理部会報告

執行部 部会長: 矢野(九大) 副部会長: 竹林(京大)
幹事: 大槻(山梨大), 新谷(都立大)

WG活動:

- ・温暖化適応WG(入江): 環境省推進費へ応募. 11/13オンラインでWG開催.
- ・流砂・植生動的マネジメントWG(竹林): 年度内にオンラインWGを予定.
- ・閉鎖性水域WG(新谷): 報告なし

研究集会2020 in久慈川: → 秋以降に延期 → 12月を目途にオンライン開催を計画中

久慈川は来年度へ延期予定

1. 日時

現地見学会, 懇親会: 2020年7月2日(木)

研究発表会: 7月3日(金)

2. 開催場所

現地見学会: 久慈川流域

懇親会・研究発表会: 水戸市内 → 久慈川は来年度に回す予定.

部会:

11/6お昼休みにWEB会議で開催

水害対策小委員会

水工学委員会における水害調査活動の円滑化および水害研究の更なる発展のための活動を行う小委員会

【活動内容】

- ・水害発生時に、水工学委員会が速やかに調査団を組織するためのサポート、調査団員公募のサポート、調査費獲得のためのサポート等をする。
- ・水害発生時に、他部門及び他学会との合同調査団の結成や河川管理者（行政機関）との窓口となる。
- ・水害発生時の水工学委員会としての対応・調査マニュアルを作成する。
- ・自然災害研究協議会と協力し、河川災害シンポジウムを企画・運営する。
- ・消防及びレスキューと情報交換を行い、水工学知見に基づいたレスキューマニュアルの改善やレスキュー技術の向上に努める。
- ・国土交通省及び地方自治体の水害対策部署と情報交換及び勉強会を行い、水防技術の向上に努める。
- ・水工学委員会に講演依頼がある水害に関する講演及び教育活動の窓口となる

2020年度 小委員会 メンバー

委員		
・小委員会委員長 ・幹事（各支部から1名） (幹事長兼務)	田中茂信	京都大学
	川村里実	寒地土木研究所
	川越清樹	福島大学
	二瓶泰雄	東京理科大学
	田代 喬	名古屋大学
	佐山敬洋	京都大学
	岡田将治	高知工業高等専門学校
	赤松良久	山口大学
	重枝未玲	九州工業大学
	田中克直	国交省 水管理・国土保全局防災課災害対策室長
・国土交通省本省 ・国の研究所	宮本守	ICHARM
・コンサルタント	諏訪義雄	国総研 河川研究部 河川構造物管理研究官
	富田邦裕	(株)建設環境研究所
	松田寛志	日本工営(株)
・財団 ・前水工学委員会委員長	野田敦夫	(株)パスコ
	徳永良雄	一般社団法人 国際建設技術協会
	清水 康行	北海道大学
・監事	堀智晴	京都大学
・監事	竹林洋史	京都大学
・相談役	風間 聡	東北大学
アドバイザー		
・各支部調査団組織責任者 (各支部から1名)	泉典洋	北海道大学
	田中仁	東北大学
	清水義彦	群馬大学
	富永晃宏	名古屋工業大学
	角 哲也	京都大学
	中野晋	徳島大学
	前野詩朗	岡山大学
	矢野真一郎	九州大学
オブザーバー		
・消防 ・レスキュー ・コンサルタント	上村昇	消防庁国民保護・防災部
	木下修	東京消防庁警防部特殊災害課
	佐藤孝洋	スペシャルレスキューサービスジャパン(株)
	菊地博文	(株)ドーコン
	本橋 健	(株)日水コン
	眞間修一	八千代エンジニアリング(株)
	高西春二	パシフィックコンサルタンツ(株)
	中村謙一	(株)建設技術研究所
	中村明彦	アジア航測(株)
	・その他の災害・防災関連組織	大石哲
神谷大介	琉球大学島嶼防災研究センター	

2020年度の活動

- 2020年7月： 2020年度第一回水害対策小委員会開催
- 2020年7月： 令和2年7月九州豪雨災害調査団の結成・活動のサポート
- 2020年10月： アドバイザリーボードの設置
- 2020年11月： 河川災害シンポジウムの開催(オンライン)
参考：2019年度(大宮ソニックシティ)286名
2018年度(北海道大学)214名
- 2020年12月： 2020年度第二回水害対策小委員会開催(予定)

2021年度の活動予定

- ・ 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- ・ 水害対策小委員会HPの充実
- ・ 消防連携WG
- ・ 災害写真データベースWG
- ・ SNSを用いた災害情報収集

- 2021年6月： 2021年度第一回小委員会開催
- 2021年11月： 河川災害に関するシンポジウムの実施
2021年度第二回小委員会開催

流量観測高度化小委員会活動予定

委員会構成

		委員	オブザーバー
藤田一郎	建設工学研究所		*
岡田将治	高知高専	*	
手計太一	富山県立大	*	
椿涼太	名古屋大	*	
萬矢敦啓	土木研究所	*	
橋場 雅弘	福田水文センター	*	
橘田隆史	ハイドロシステム	*	

R2年度～の主な活動予定

- 流量観測Short-course @ IAHR-APD2020は過去の資料のアップロードのみで対応
- 現時点まで合同観測会・勉強会は未開催
- 合同観測会は来年5～6月の実施を企画中
- オブザーバー・委員を引き続き増員
- 論文集(河川観測の新時代/ New Waves in Hydrometry)の立ち上げ準備
- **小委員会名を「流量観測～」から「河川観測～」に変更したい**

グローバル適応研究小委員会報告

構成

委員長	中山恵介(神戸大学)
幹事長	小林健一郎(神戸大学)
顧問	中北英一(京都大学)
顧問	矢野真一郎(九州大学)
幹事	10名
委員	18名
オブザーバー	2名

R2年度の主な活動

- 中止, 2020年5月13日:「気候変動下での水災リスクと損害保険(仮題)」
- 8月17日:気候変動を考慮した研究連関図の作成開始と幹事による打ち合わせ(ビデオ会議)
- 9月7日:研究討論会「気候変動への備えとしての損害保険そして社会資本整備」開催(リアルタイムオンライン発信)

河道管理研究小委員会報告

構成

委員長 田中規夫(埼玉大)、幹事長 戸田祐嗣(名古屋大)
委員 20名

R2年度の活動報告

- 第1回幹事会(2020.10.5) オンライン

R2年度の活動方針の議論

- 第1回小委員会(2020.10.28) オンライン

R2年度の活動方針:「河積管理(流下能力)」、「侵食・洗堀」の2テーマのWGを設置
各WGで「課題のリサーチマップ」、「フィージビリティ・スタディの候補地」を議論

今後の予定

- 第2回委員会の開催

WGでの成果報告。フィージビリティ・スタディの対象河川の選定。

流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会

第8回 流域管理と地域計画の連携に関するワークショップ

日時: 令和2年12月9日(水) 14:00~16:00

場所: オンライン

内容: まちづくりや土地利用と連携した流域治水について

プログラム: 司会進行: 二瓶 泰雄(東京理科大)

開会

■ 立川 康人(京都大学)

■ 道奥 康治(法政大学、河川懇談会座長)

基調講演

■ 矢野 真一郎(九州大学): 令和2年豪雨災害による被災の視点から見た流域治水(仮)

話題提供(まちづくりや土地利用と連携した流域治水について)

■ 国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画調整室: 「流域治水」の取り組みの方向性

■ 国土交通省 都市局都市計画課: 水災害対策とまちづくりの連携

■ 国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画調整室: 河川 砂防技術 開発公募制度の概要

■ 田中 智大(京都大学): 水災害リスクカーブ推定手法の高度化と社会変化・気候変化適応策評価への適用(河川砂防技術研究開発公募研究)

■ 川島 宏一(筑波大学): 避難遅れゼロを実現するための「みんなでタイムラインプロジェクト」自治体全域展開方策に関する研究(河川砂防技術研究開発公募研究)

総合討議(まちづくりや土地利用と連携した流域治水について)

■ コーディネータ: 田中 尚人(熊本大学)

まとめと閉会

令和二年度第1回海岸工学委員会報告

6月22日14:00～16:30 オンライン開催

■ 議事録確認

■ 第67回（本年度）海岸工学講演会

日程：2020/11/11（水）～13（金）

会場：じゅうろくプラサ，
岐阜大学サテライトキャンパス

→オンライン開催

5会場×3日間開催から3会場×4日間
開催に変更

■ 第68回（次年度）海岸工学講演会と 同時開催予定であったAPAC2021

→2023年に変更開催

→2021年岐阜，2022関東，2023京都

■ Coastal Engineering Journal

2018 IF：2.016.

2019 IFの暫定予測：2.42

査読期間2ヶ月 → 1ヶ月に変更，修正期
間も短縮して採択までの期間を短縮

■ 第56回（高知）水工学に関する夏期研 修会

次年度にそのままの態勢で延期

■ 研究小委員会等の活動について

水理公式集例題集編集小委員会

- ・ 赤松良久（山口大学）
- ・ 泉 典洋（北海道大学， 委員長）
- ・ 入江政安（大阪大学）
- ・ 内田龍彦（広島大学）
- ・ 小原一哉（いであ）
- ・ 片山直哉（パソコン）
- ・ 佐山敬洋（京都大学）
- ・ 手計太一（富山県立大学， 幹事）

五十音順

第1回小委員会

日時：2020年10月14日（水）12：00～13：15

出席者：赤松、泉、入江、内田、小原、片山、佐山、手計

- 旧例題集＋プログラム集が良いのではないか＝例題集【発展版】
＋プログラム集

第2回小委員会

日時：2020年10月21日（水）16：00～17：33

出席者：赤松、泉、入江、内田、小原、佐山、手計

- フォーラムもしくはコミュニティを作ってオープンソースが望ましく、その仕組み作りも必要
- GitHubにコミュニティを作ることを検討してみる

第3回小委員会

日時：2020年11月1日（日）16：00～16:15

出席者：泉、入江、内田、小原、片山、手計

- オープンソースは時代の流れであり、GitHubは学生教育にもメリット

水理公式集例題集の編集方針

- 水理公式集掲載の公式をどう使うのかを理解するための例題集でありプログラム集
- 昭和60年版例題集の発展版＋プログラム集
- プログラム集はオープンソース，オープンデータを基本とし，GitHub等でコミュニティ (GitHubではOrganization) を作り公開・共有

オンラインWG メンバー構成

	氏名	所属
リーダー・委員	溝口 敦子	名城大学・東北大学災害科学国際研究所
委員	入江政安	大阪大学
委員	内田龍彦	広島大学
委員	佐山敬洋	京都大学防災研究所
	巖島 怜	東京工業大学
	岩崎理樹	北海道大学
	大槻順朗	山梨大学
	岡田輝久	電力中央研究所
	片岡智哉	東京理科大学
	後藤岳久	中央大学
	竹村吉晴	中央大学
	峠 嘉哉	東北大学
	橋本雅和	東北大学災害科学国際研究所
	丸谷靖幸	九州大学
	山田 真史	京都大学防災研究所
委員長	清水 義彦	群馬大学
幹事長	二瓶泰雄	東京理科大学

+ 東京理科大の
小野村史穂先生
(暫定メンバー?)

活動内容：連続講演会の企画・運営， 水工学講演会の運営 委員会関連組織のオンラインイベント補佐

連続講演会の記録と今後の予定

	開催日時	講師	タイトル	Youtube	ZOOM	司会者	主担当	ZOOM担当	配信担当
第1回	2020年7月13日（月）17時～	福岡捷二	変化の激しい時代に向けて，水工学研究はどうあってほしいか	413	47	溝口敦子	溝口敦子	岩崎理樹	大槻順朗
第2回	2020年8月7日（金）17時～	辻本哲郎	私擬治河議～一水理学研究者が考える激甚化する豪雨・洪水災害克服への道筋	411	70	戸田祐嗣	溝口敦子	橋本雅和	岩崎理樹
第3回	2020年9月30日（水）17時～	中北英一	何故、気象学にもどっぷりつかってきたか	314	80	佐山敬洋	佐山敬洋	山田 真史	峠 嘉哉
第4回	2020年10月27日（火） 10時～12時	-	水工学論文賞および奨励賞の受賞講演	90?	32	鼎信次郎	溝口敦子	巖島 怜	丸谷靖幸
第5回	2020年11月25日（水）17時～	今村文彦	災害多発時代を生きるレジリエント社会構築に向けて			入江政安	入江政安	岡田輝久	片岡智哉
第6回	2020年12月11日（金）17時～	山田 正				内田龍彦	内田龍彦	後藤岳久	竹村吉晴
第7回	2021年1月22日（金）17時～	小松利光				矢野真一郎	溝口敦子	岩崎理樹	大槻順朗

会議開催

オンライン講演会の運営 一回の講演会あたり

1. 講演者を含めた講演会趣旨説明, 事前打ち合わせ1回
(委員長, 幹事長, リーダ, 主担当者, 運営担当者)
2. 講演会運営打ち合わせ 1回
(リーダー), 主担当者, 運営担当者)
3. 必要に応じて先生を含めた試行 1回
(リーダー), 主担当者, 運営担当者)

-----オンライン講演会 -----

4. 運営改善に向けた事後打ち合わせ 1回
(リーダー), 主担当者, 運営担当者)

全体運営
不定期

講演会に向けた会議

全体会議 2回

各イベント打ち合わせ

【参考】講演会までのWGスケジュール(当初案)

	WG	通知・締め切り	準備	動画発表関連	口頭発表	シンポジウム	企画
10月5日 (月)		講演会HPおよび発表受付通知					
10月6日 (火)		動画締め切り通知(鼎先生から配信いただく?)		(希望者)動画受付概要を通知受信			
10月7日 (水)							
10月8日 (木)	10時～第四回打ち合わせ		(岩崎, 竹村)ZOOMマニュアル作成締め切り				
10月9日 (金)		ZOOMマニュアル, HP上で通知 できれば企画・シンポの内容通知(HPIに掲載)				できればここまでに企画 内容をHPIにて掲載	
10月10日 (土)							
10月11日 (日)							
10月12日 (月)		ここまでに シンポジウム, 企画の概要通知 & ZOOM登録受 付開始	(竹村)口頭発表会場アナウンスPPT準 備, (セッション開始時注意事項と終了時の			遅くともここまでにZOOM 登録受付開始	ここまでに シンポジウム, 企画の概要 通知 & ZOOM登録受付開始
10月13日 (火)	15-17時 全体打ち合わせ	接続施行通知					
10月14日 (水)							
10月15日 (木)							
10月16日 (金)			Youtube配信準備				
10月17日 (土)							
10月18日 (日)							
10月19日 (月)							
10月20日 (火)							
10月21日 (水)	13時～ 第四回接続試行						
10月22日 (木)							
10月23日 (金)		必要なら司会・聴講者・発表者用背景をHPに掲載	(橋本)ホスト用背景画面準備 → アレンジは各会場担当者 司会者・聴講者用背景も?				
10月24日 (土)	担当者: 企画2会場確認						
10月25日 (日)		動画締め切り		(WG)ファイル受け取り締め切り			【特別セッション2】配信確認
10月26日 (月)	接続施行			(WG:片岡さん)から会場担当者へ配布	司会, 希望者(希望者のみ): 接続施行		
10月27日 (火)	10時～12時 受賞式および受賞講演 接続施行			(WG会場担当者)配信PCにて動画配信状況 を確認, 発表者とやり取り 2日までに終了さ せる	司会, 希望者(希望者のみ): 接続施行		
10月28日 (水)	接続施行				司会, 希望者(希望者のみ): 接続施行		
10月29日 (木)							
10月30日 (金)	10-12時全体打ち合わせ						
10月31日 (土)							
11月1日 (日)							
11月2日 (月)		シンポジウム, 企画ZOOM受付終了 参加受付終了, セッション情報やYoutube配信 URLなどの配信		(WG会場担当者)動画準備完了			
11月3日 (火)							
11月4日 (水)	9時 会場担当 集合 9時半 WG 集合 (開会式会場にて委員長から一言) 20時 WG トラブル共有Meeting			(会場担当)セッションにて動画配信			
11月5日 (木)	9時半 会場担当 集合 18時 WG トラブル共有Meeting			(会場担当)セッションにて動画配信			
11月6日 (金)	9時半 会場担当 集合 18時半 WG 集合→打ち上げ??			(会場担当)セッションにて動画配信			

水工学委員会年間予定表(2020-)

		主要行事	開催方法	担当
2020年	6月	6/4R2年度第一回水工学委員会	オンライン	
		6/10-11 河川シンポ	中止	
		6/30水工学論文集締切		
	8月	8/27-28 水工学に関する夏期研修会in高知	延期	
	9月	9/9-11全国大会	オンライン	
		9/15-16IAHR-APD	オンライン	
	11月	11/4-6 第65回水工学講演会in富山	オンライン	
		11/4 R2年度第二回水工学委員会	オンライン	
		11/12-13 第25回水シンポin群馬	延期	
	12月	12/9 流域管理小委員会WS	オンライン	立川委員
12月? 環境水理部会研究集会		オンライン	環境水理部会	
2021年	5月	5/31(月) 水工学論文集締切	予定通り(審議)	次期執行部
	6月	6月? R3年度第一回水工学委員会	次期執行部	次期執行部
	8月	8月? 水工学に関する夏期研修会in高知	対面?	張先生, 森脇先生
		8/26-27 第25回水シンポin群馬	対面?	清水委員長, 水文部会
	12月	12/8-10 第66回水工学講演会in富山	対面?	手計先生
2022年	7月	第26回水シンポin山形(時期未定)	対面?	風間委員, 河川部会
	11月	11/23-25第67回水工学講演会in愛媛	対面?	森脇委員

水工学講演会

水工学に関する夏期研修会

水シンポジウム

水工 研修 シンポ

回	回	回	年	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
回	28		1992			東京					
38	29		1993		秋田	中央大					
39	30		1994			中央大		大阪			
40	31		1995	北見		中央大					
41	32	1	1996			中央大				山口	
										鳥取	
42	33	2	1997					兵庫	徳島	鳥取	
43	34	3	1998		福島		名古屋	立命館大			
44	35	4	1999		日大	東京					北九州
						東工大					熊本
						東京					
46	37	6	2001		山形		名工大				
							富山				
47	38	7	2002	札幌		早稲田大		京都			
48	39	8	2003						愛媛	岡山	熊本大
49	40	9	2004	釧路		国士館大				広島	
50	41	10	2005					京都大	愛媛		
								大阪			
51	42	11	2006		宮城	法政大	岐阜				
52	43	12	2007				愛知			広島大	福岡
53	44	13	2008			芝浦工大					
						東京					
						千葉					
54	45	14	2009	北大	郡山		新潟				
55	46	15	2010			東大生研		神戸			福岡
56	47	16	2011					京都	愛媛大	広島	
57	48	17	2012	札幌			名城大				
							岐阜				
58	49	18	2013				名古屋	神戸大	高知		
59	50	19	2014			早稲田大					北九州
											長崎
60	51	20	2015		東北工大	東京		福井			
61	52	21	2016		秋田					山口	九州大
62	53	22	2017					大阪		岡山大	沖縄
63	54	23	2018	北大			静岡			山口	
64	55	24	2019			埼玉大	名古屋	滋賀			
65			2020								
66	56	25	2021			群馬	富山県大		高知		
67	57	26	2022		山形				愛媛大		

水シンポ 夏期研修会
 担当部会
 河川
 環境水理
 基礎水理
 水文
 河川
 環境水理
 基礎水理
 水文
 河川
 環境水理
 基礎水理
 延期
 水文
 河川
 海岸
 水工
 延期
 水工
 海岸

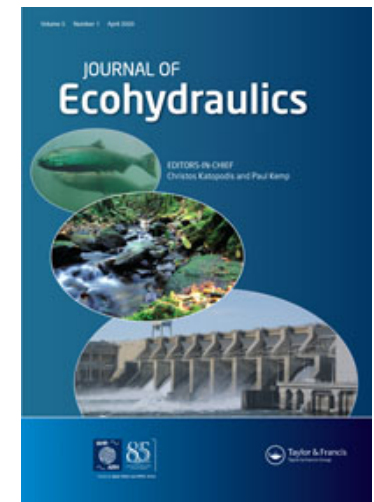


IAHR
85 ANNIVERSARY

Journal of Ecohydraulics

Ecohydraulics はかつて日野先生にご提案頂いて、IAHRの中に発足した分野です。2018年には、第12回大会を東京で開催、海外からの参加者300名を含む、過去最高の500名の参加を得ています。IAHR内部でも日本に対して大きな期待が寄せられています。Ecohydraulicsのgroupで、2016年からJournal of Ecohydraulicsを発刊してきました。水工学委員会からの絶大なるご支援をお願いできれば幸いです。宜しくお願いします。

浅枝 隆(2021年からEditor-in-Chief 予定)



- 2016年 (Vol.1) より、Taylor & Francis より年に2回発行 現在までにVol.5まで発刊
- 受け付ける論文の範囲：
物理的なアプローチ、数値シミュレーション、生態学的内容、水生生物、生息環境、
温暖化、洪水など、水工学に関する、ほぼすべての分野の実験、観測、政策的な適用等、様々な話題
- Editor-in-Chief Paul Kemp, *University of Southampton, UK*
Christos Katopodis, *Katopodis Ecohydraulics Ltd. , Canada*

Advisory Editors:

Roger Falconer, *Cardiff University, UK*
Peter Goodwin, *University of Idaho, USA*
Arthur Mynett, *UNESCO – IHE, Netherlands*
Vlad Nikora, *University of Aberdeen, UK*
Wang Zhaoyin, *Tsinghua University, China*

Associate Editors:

Knut Alfredsen, *Norwegian University of Science and Technology, Norway*
Normand Bergeron, *Institut national de la recherche scientifique, Centre Eau Terre Environnement, Canada*
Rohan Benjankar, *Southern Illinois University Edwardsville, USA*
Steven Cooke, *Carleton University, Canada*
George Constantinescu, *University of Iowa, USA*
Maria Teresa Ferreira, *University of Lisbon, Portugal*
Shi-Jian Fu, *Chongqing Normal University, China*
Christoph Hauer, *BOKU - University of Natural Resources and Life Sciences, Austria*
Martyn Lucas, *Durham University, UK*
Francisco Martinez-Capel, *Institut IGIC - Univ. Politècnica de València, Spain*
Stephen Rice, *Loughborough University, UK*
Gregory Pasternack, *University of California, Davis, USA*
José Maria Santos, *University of Lisbon, Portugal*
Eva B. Thorstad, *Norwegian Institute for Nature Research – NINA, Norway*

投稿のメリット

- IAHRのオフィシャルジャーナルであり、最も力を入れられているものの一つである。
(Joseph Lee会長が最も力を入れており、IAHRの出版委員会でも最も多くの議論がなされる)
- 欧米中心のジャーナルであり、現状の研究レベルの動向、分布を考えると、極めて有利である。
- 生態学等と結びついたジャーナルでありながら、生物学的な視点以外のものも広く受け付けられている。
(競合するジャーナルでは、生物学的視点やそのレベルを要求される)
- モデルやシミュレーションなど、水工学的な手法が中心課題の一つである。
(モデルは、Ecological Modellingなどで受け付けられてはいるが、近年、数学的理論面にシフトしてきている。
水理学的なアプローチにシフトしたものは他の生態学的なジャーナルでは重要なものとしては扱われない)
- 新しく掲載される論文が、IAHRのオンラインで広く公表される。

ジャーナルとしての課題（個人的な構想 次回会議で提案）

- 発刊以来5年経過したことから、SCI journalとしての登録される資格には達している。可能な限り早く登録を進める必要がある。また、その際に、高いIFを得る必要がある。
(年4 issuesに切り替える。また、ピクトリアルアブストを導入、サイテーションを増やす)
- 年2回の発行を、年間4issuesを増やすために、投稿論文数を増やす必要がある。
(日本の水工学研究者に期待する。
生物学的な論文を増やすことで、分野間の障壁を取り除く。
洪水、水防災等への分野の拡大を図る。
投稿数は年間200?程度にまで増加させる)
- 分野をさらに拡大させる必要がある。
(Editorial Board に多数の生物学や地形学など他分野の研究者を加え、100人規模に拡大する。
投稿数の拡大、サイテーション数の増加等に大きく貢献する。)

第66回水工学論文集 編集作業について(会議予定素案)

開催日	会議	会場	協議資料1
2021年5月1日(土)	論文投稿受付開始		
2021年5月31日(月)	論文投稿受付締切		
2021年6月初旬	第一回水工学委員会 & 幹事会(対面orオンライン)	土木学会??会議室	
2021年6月初旬 翌日	第一回編集小委員会幹事会 第一回編集小委員会(対面orメール審議)	土木学会??会議室	
2021年6月30日(水)	第1回査読期限		
2021年7月初旬	第二回編集小委員会(メール審議)		
2021年7月30日(金)	修正原稿締切		
2021年8月初旬	第三回編集小委員会(メール審議)		
2021年8月20日前後	第二回編集小委員会幹事会(メール審議)	土木学会??会議室	
2021年8月上記の後	最終原稿締切		
2021年12月8-10日	第66回水工学講演会		

ここは
決めたい

令和2年度水工学委員会予算

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
収入	調査研究費	¥1,202,000	¥1,215,000	¥1,127,000	¥680,000	¥1,056,000	¥1,038,000	¥953,000	¥986,000	
	拡充支援金	¥1,581,000	¥1,898,000	¥1,981,000	¥1,612,000	¥1,372,000	¥3,570,000	¥4,178,000	¥3,305,000	
	合計	¥2,783,000	¥3,113,000	¥3,108,000	¥2,292,000	¥2,428,000	¥4,608,000	¥5,131,000	¥4,291,000	
支出	水シンポ	旅費	¥275,500	¥259,600	¥289,440	¥448,656	¥1,001,586	¥435,654	¥314,757	¥0
		他	¥9,450	¥4,761	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥823,868	¥0
	親委員会 & 編集小	旅費	¥2,312,871	¥1,550,360	¥2,428,595	¥1,328,050	¥819,340	¥954,045	¥1,670,761	¥0
		他	¥122,530	¥58,529	¥64,120	¥265,754	¥112,384	¥625,517	¥604,244	¥0
	部会・小 委員会	旅費	¥54,325	¥110,450	¥46,656	¥18,360	¥189,842	¥402,396	¥439,237	?
		他							¥293,184	?
	その他	¥0	¥49,280	¥63,982	¥26,303	¥98,788	¥0	¥0		
合計		¥2,774,676	¥2,032,980	¥3,092,793	¥2,287,123	¥2,421,940	¥2,617,612	¥4,146,051		

<審議事項>

- ・収入の内, 拡充支援金の繰り越しが可能である. 繰り越してよいか?
- ・支出は主にはオンライン連続講演会関係のみ. 年度内(3月まで)の支出希望はあるか?